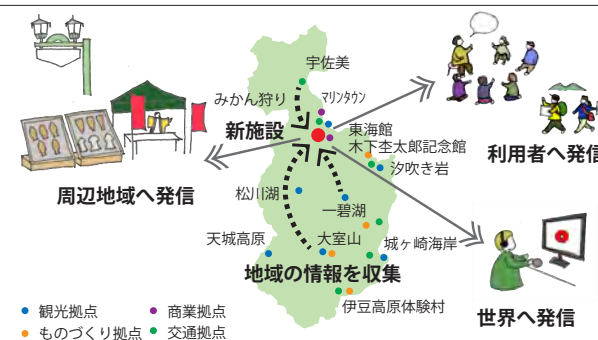




伊東の入り口「まちのミュージアム」をつくる

「国際観光温泉文化都市」である伊東は、独特の地形がつくる景勝地や温泉、体験型のものづくり拠点など魅力的な場所がまちじゅうに点在しています。ここへ来ると伊東の全てがわかる入り口として、郷土資料を中心に、まちのあらゆる情報を収集し再編集して、利用者や周辺地域、世界へと発信する「まちのミュージアム」を新施設の幹とします。「まちのミュージアム」を訪れた人は、伊東の様々な情報に出会い、それぞれの興味に応じて活動を行い、新しいまちの情報を創ります。誰もがまちの情報の創り手となることで『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～を実現します。



伊東の生命力のある自然環境と有機的につながる

伊東の豊かな環境を象徴する大地とつながる緑豊かな環境をつくりたい。明るい場所や落ち着いた場所など環境のムラを積極的につくりだす「ヒダ壁」によって多様な居場所をつくり、施設を巡るだけでも伊東の環境を感じられる空間をつくりたい。施設全体を巡る「まちのミュージアム」が伊東のまちと連続した体験の場になることを目指します。





施設全体をつなぐ「まちのミュージアム」

テーマごとの資料配置とともに、上ってみたいくなる階段や他のフロアの様子が感じられる吹抜によって巡る体験をつくり、施設全体に「まちのミュージアム」を展開します。巡る体験が各フロア同士の連携を生み、様々な情報を繋げ、利用者の興味の連鎖を生み出します。

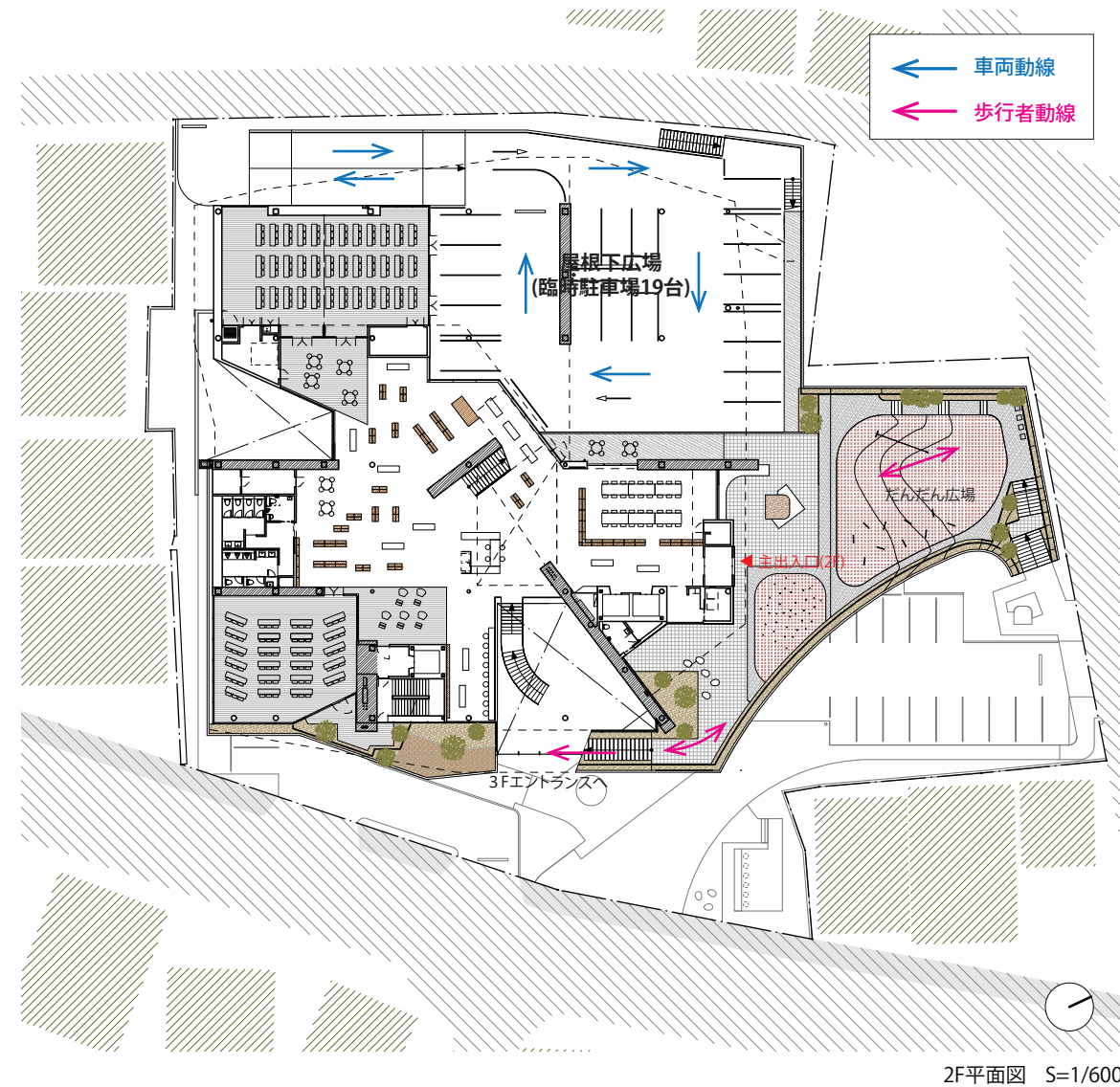
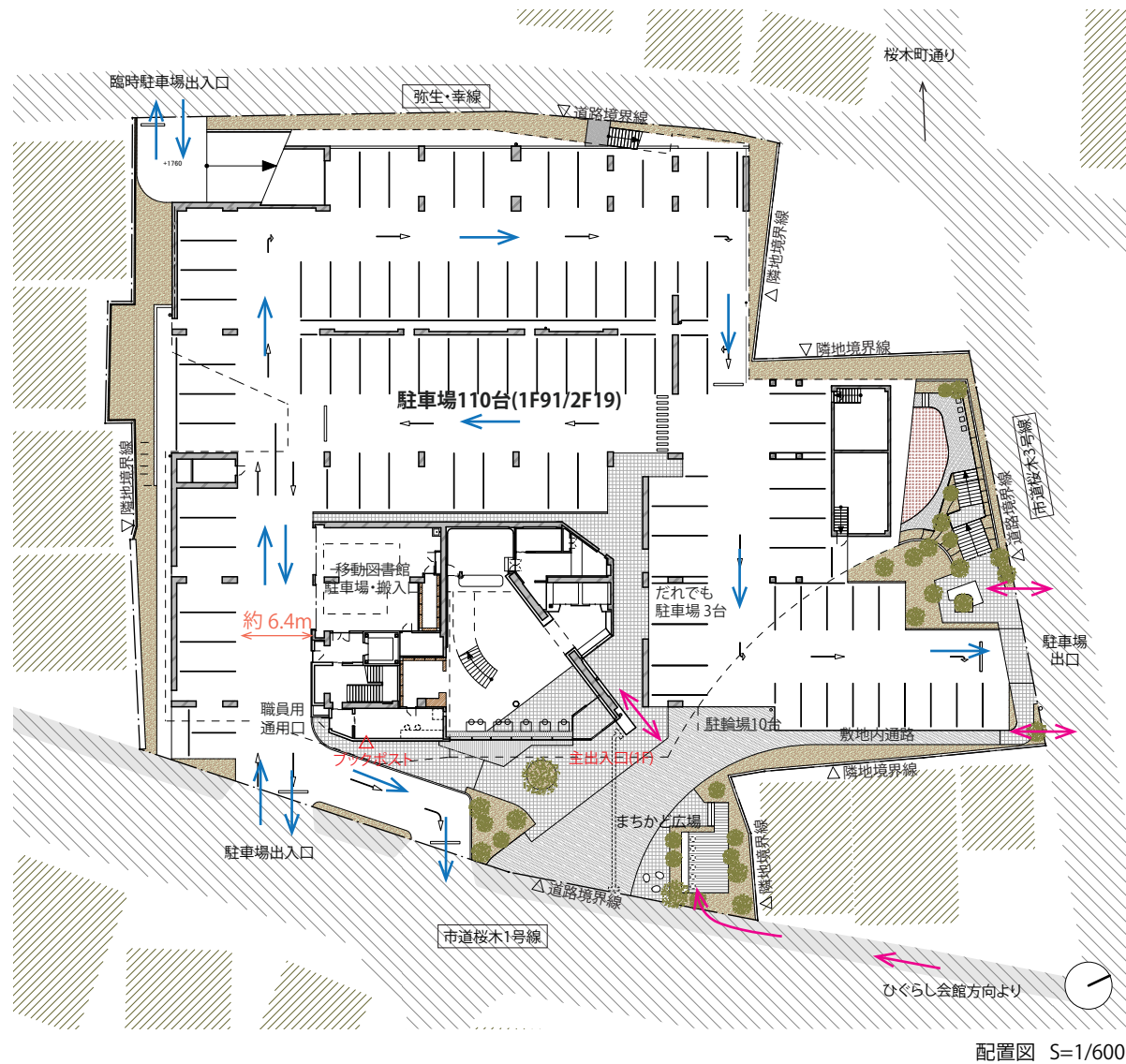
情報・活動・環境の拠り所となる「ヒダ壁」

様々な方向に開かれた「ヒダ壁」は伊東の豊かな環境に応答しながら多様な居場所を生み出します。「ヒダ壁」は空間を分節しつつ開くことで、フロア内に環境のムラをつくります。「ヒダ壁」を拠り所として活動と情報を一体的に計画することで、情報に出会う、活動・体験する、情報を創るというサイクルが生まれ利用者の創造活動を促進します。



建築概要

所在地	: 伊東市桜木町二丁目地内
規模	: 鉄骨造一部RC造5階建て (駐車場は1階及び2階部)
敷地面積	: 4,012.29 m ²
建築面積	: 2,892.37 m ²
延べ床面積	: 7,365.71 m ²
	施設屋内面積: 4,660.10 m ²
	1・2階屋内駐車場等: 2,705.61 m ²
駐車台数	: 約110台
収容冊数	: 約30万冊



配置計画

- ・地上階に、観光情報、カフェ、ショップを核とした魅力的な建物の顔をつくります。
- ・丘の下に駐車場を配置して、平面駐車を使いやすい計画とするとともに、外観から駐車場が目立ちにくい計画とします。
- ・北側の「丘」が地上からゆるやかにつながることで、2階のメインエントランスへもアクセスしやすい計画とします。
- ・隣地境界との間に適切な離隔を確保して植栽を計画するなど、隣接する北東側の住宅や周辺住宅へ配慮します。

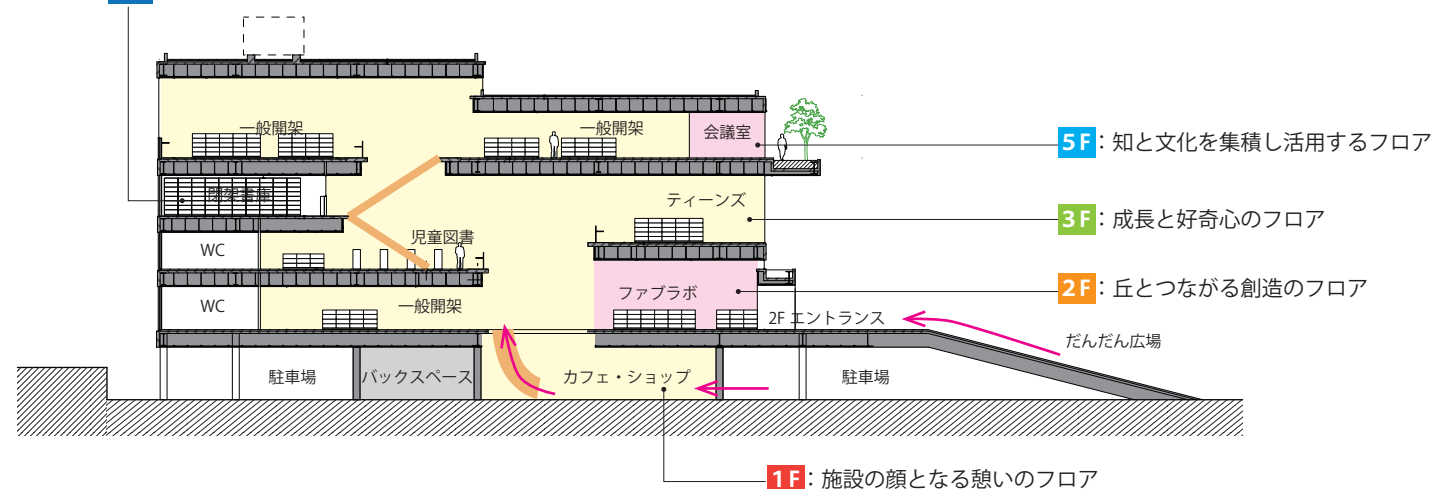
動線計画

- ・歩行者動線と車両動線は明確に分離し、安全性に配慮します。
- ・ブックポストへの図書の返却や送り迎えのしやすい車寄せを計画し、多世代が利用しやすい計画とします。
- ・メインエントランスを1F、2Fに計画することで、様々な方向から訪れる人に開かれた配置とします。
- ・主な車両動線を東側のメイン道路に集約することで、細い道の多い周辺交通に配慮します。

外構計画

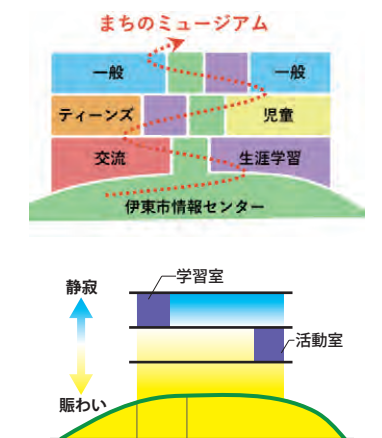
- ・東側のメイン通りの歩道に沿って広場を計画し、利用者を建物へと導きます。
- ・北側には道路より少し上のレベルに子どものあそび場にもなる傾斜を活かした「だんだん広場」を計画します。
- ・上層階のテラスも含めて外周を緑化することで景観に配慮し、伊東の力強い大地と調和する外観とします。

4F: 豊かな蔵書を感じる閉架フロア



フロア構成

- ・メインフロアを2階、3階、5階の3層としてフロア内での各機能の相互連携を生み出しやすい構成とします。
- ・低層階から上層階へと「まちのミュージアム」を軸として連続性をつくり、館内のオープンスペースは多様な交流を促すためのコミュニケーションを前提とした計画とします。
- ・全体に活動が展開するオープンな構成を前提としながらも、賑やかな低層階から静かな上層階へと階層による音のゾーニングを計画します。また、個室によって選択的に静寂性を確保できるものとします。
- ・丘をつくり1階を持ち上げることで、主な図書フロアを想定される浸水ラインよりも上に配置し、図書や資料を守ることができる計画とします。
- ・上階からもテラス経由で外に出られるようにすることで、避難のしやすい計画です。



2F 丘とつながる創造のフロア

活動の丘と連続する2Fには、ファブスペースや活動の部屋、小ホールなどのアクティブな機能を配置し、多様な創造が生まれる場とします。書架は可動するなどフレキシブルに利用できるものを検討し、イベントや活動に柔軟に対応できる設えとすることで、利用者の交流を促す空間とします。

1 開架エリア

- 専門分野などの導入となる図書を活動と関連づけながら配置し、活動や図書、展示などの多様な情報の入口をつくります。
- 利用者自らが情報の創造に参加しやすい計画とします。

2 小ホール

- 間仕切りによる2室化や駐車場との一体利用など、多様な活動を想定したフレキシブルな計画とします。

3 活動の部屋1

- ダンスや音楽活動などの動的な市民活動のできる、通りに面して明るく開放的な空間とします。

4 ファブラボ

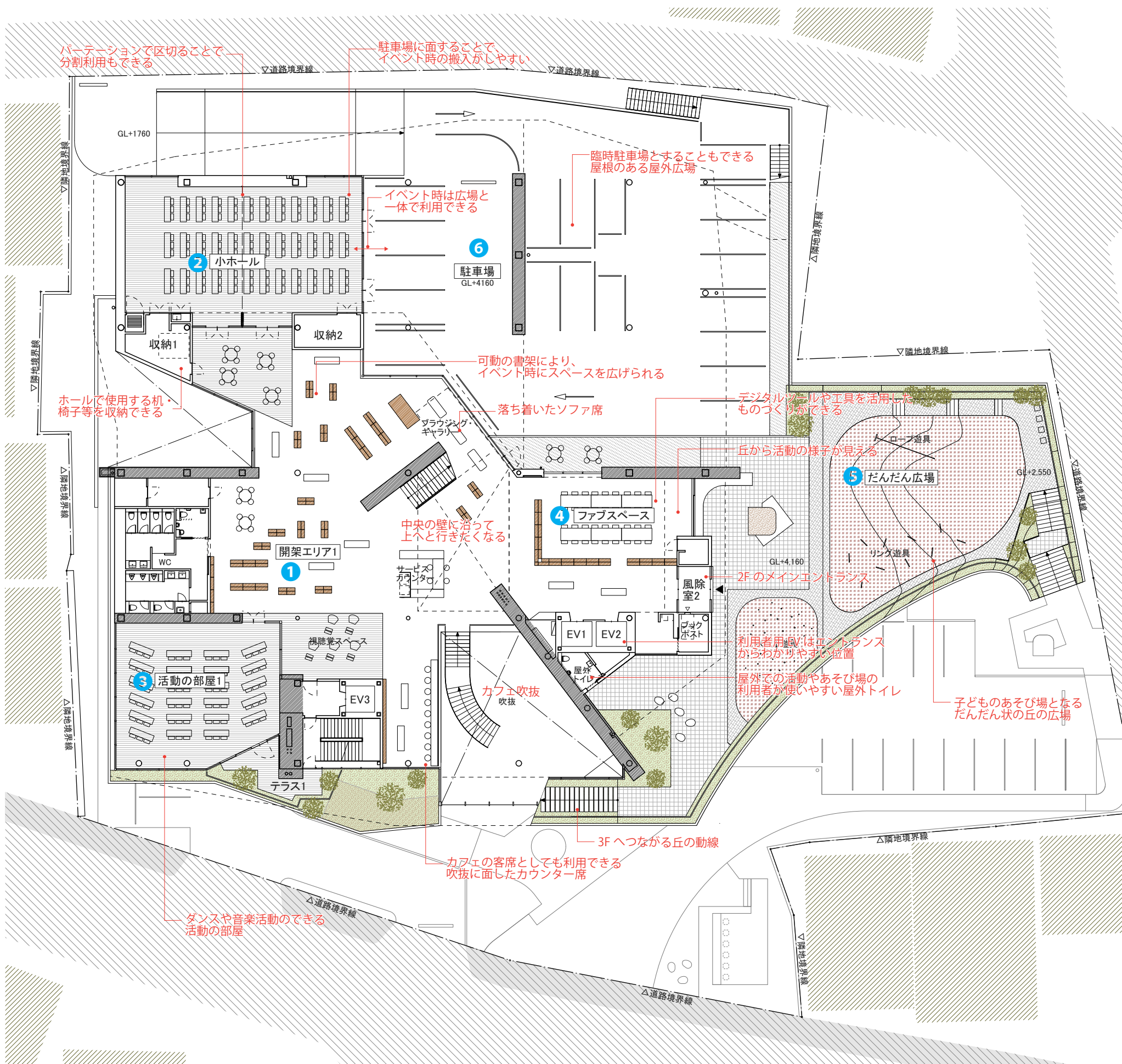
- 丘と連続し様々な創作活動を行える場とします。
- デジタルツールなどの利用のない時には、コワーキングスペースとして開放するなど、エントランス横であることを活かした利用が可能です。

5 だんだん広場

- 1Fとつながる丘状の広場は多世代の居場所になります。傾斜を活かし、子どもたちが遊ぶことのできる場としても計画します。

6 屋根下広場

- 2Fの駐車場は臨時駐車場とすることで、日常的には屋根のある広場として室内と連続した利用のできる計画とします。



「ヒダ壁」に沿った階段が利用者を3階へいざなう

3F 成長と好奇心のフロア

子どもの空間を中心として、親子で過ごしやすい場や、中高生の活動と学びなど、多世代の様々な交流を促す場とします。2Fからの階段を上ると、スキップフロア状に時計回りに床が少しずつ高くなり、大きなワンルームでありながらもゆるやかに空間を分節することで、多世代が過ごしやすい計画です。

1 開架エリア

- ・スロープと大階段で繋がるレベル差のある空間は、エリアごとに対象年齢を分けることで、同じ空間に多世代が共存できる計画とします。
- ・大階段を利用した閲覧席や、吹抜に面したカウンターテーブルなど多様な場をつくります。

2 会議室 1

- ・閲覧スペースと連続した空間とし保護者向けのワークショップなど自由な使い方のできる場とします。

3 キッズスペース・お話し

- ・庭に連続した明るいスペースとすることで、子どもたちが安心して遊ぶことができる場とします。

4 イベントスペース

- ・段差を利用し、多世代のイベントを行える空間とします。
- ・壁によって場をつくり、閉じた部屋にしないことで参加者を規定しないイベントを行える場所とします。

5 学習室

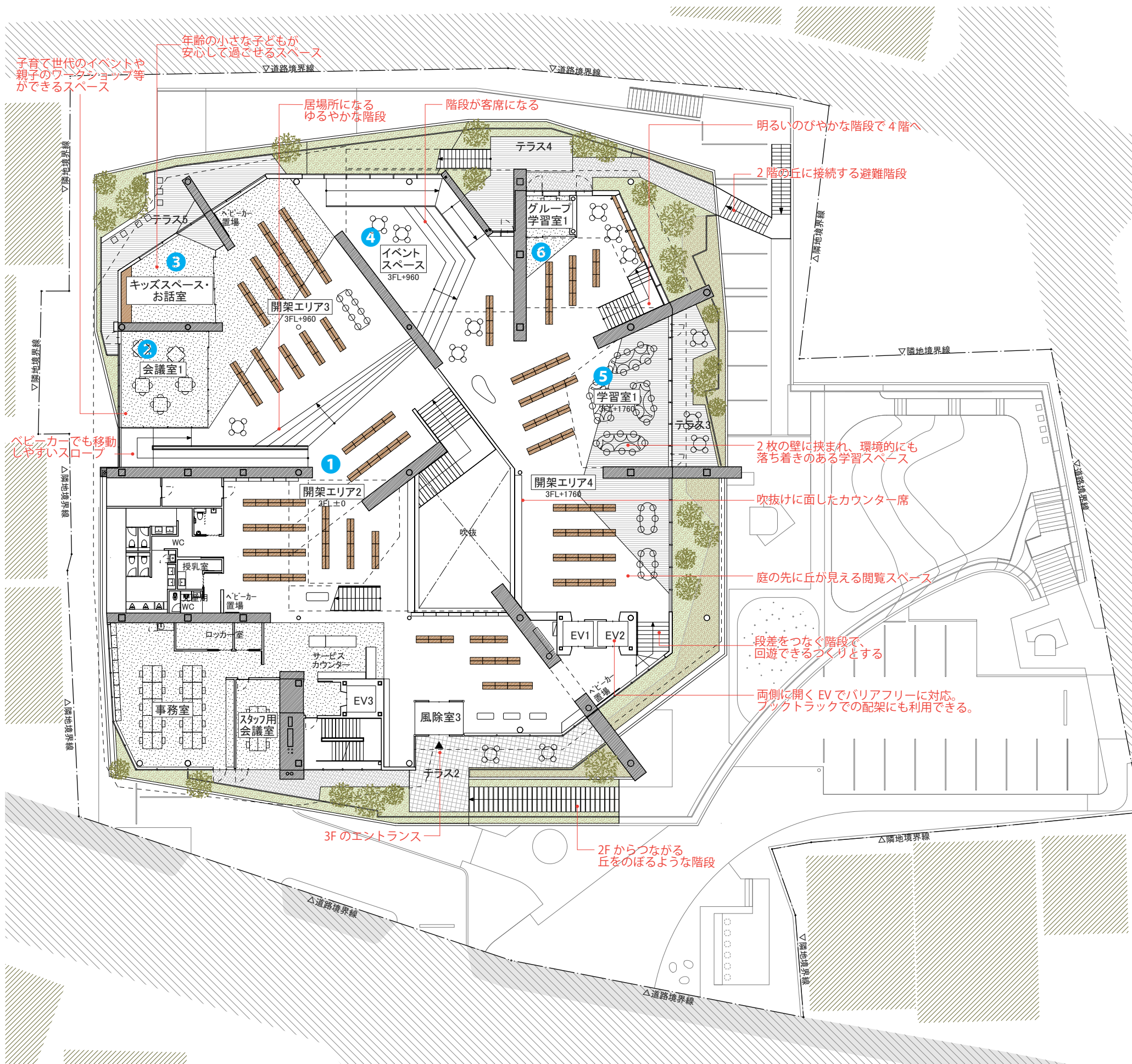
- ・環境的にも安定した落ち着いた学習スペースとすることで、部屋として閉じていなくても集中しやすい空間とします。

6 グループ学習室

- ・ディスカッションや談笑などを行える閉じた学習スペースとします。

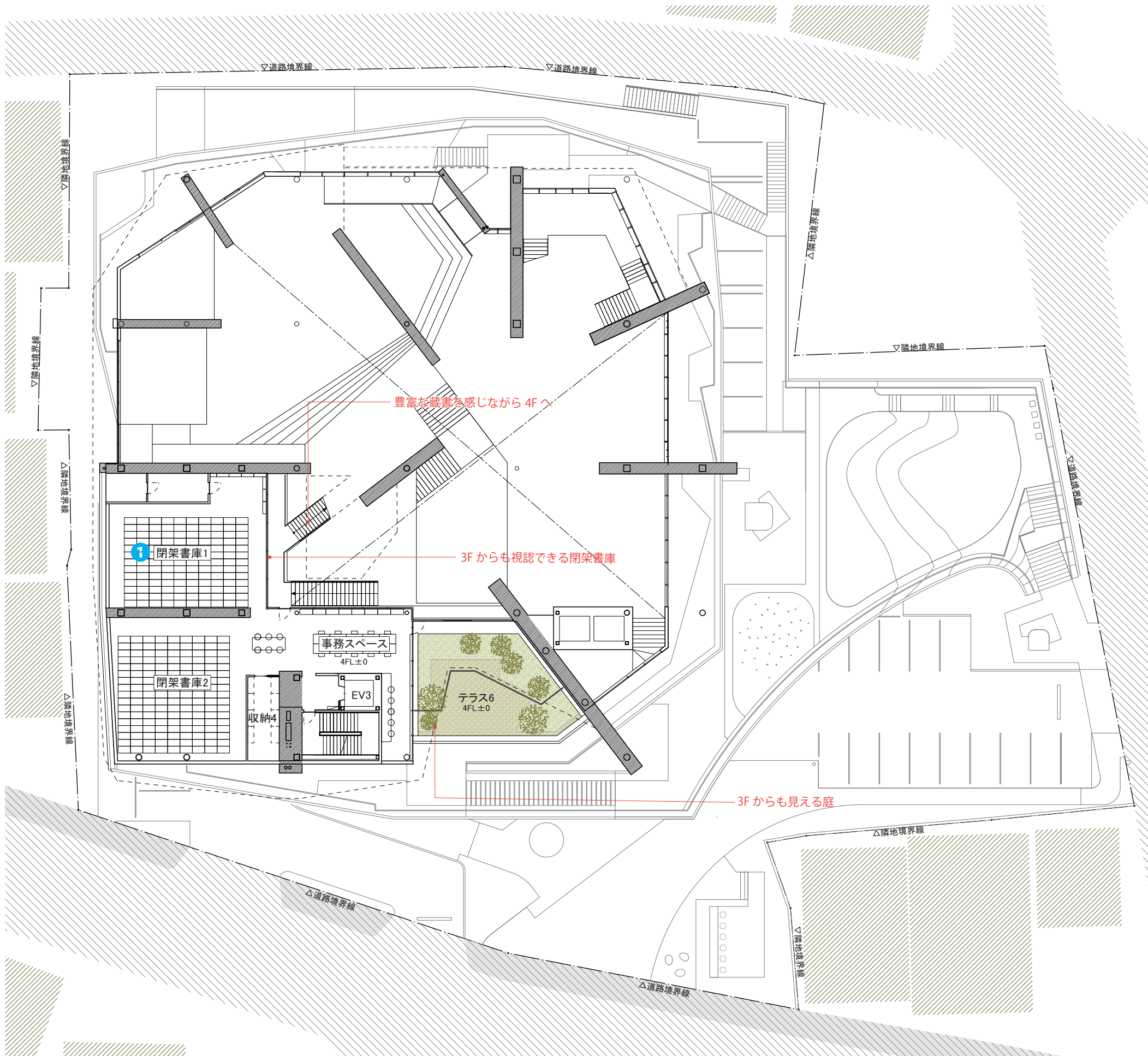


高さの異なる床がひとつながりの空間に居場所をつくる



4F 豊かな蔵書を感じる閉架フロア

上階への動線の途中で閉架書庫を設け、管理しやすく、かつ利用者フロアからは豊かな資料を感じることができる計画とします。



1 閉架書庫

- ・利用者フロアからも豊かな蔵書を感じることができる空間とし、3階から5階への動線の途中でガラス越しに閉架書庫内が見える計画とします。
- ・閉架書庫を1か所に集約し、図書の多い3階と5階の間に配置することで、出納のしやすい計画です。



5階への階段が吹抜けを貫く

5F 知と文化を集積し活用するフロア

風景に開かれて眺望の良い5Fは、一般資料と郷土資料をメインとし、落ち着いて利用できるフロアとします。講座等が開催できるスペースも兼ね備え、様々な知が集積し好奇心を促す場とします。

1 開架エリア

- 壁を抛り所にしながらかテーマごとの図書を配置します。
- 書棚の高さは場所ごとにメリハリをつけ、豊かな蔵書や展示に囲まれた空間をつくります。

2 活動の部屋 2

- 眺めが良く、安定した環境で庭とも連続することで、広がりのある空間とします。
- 図書資料を活用した講座や研究発表などが行えるスペースです。
- 利用のない時には居心地の良い閲覧スペースとして開放することも可能です。

3 会議室 2・3

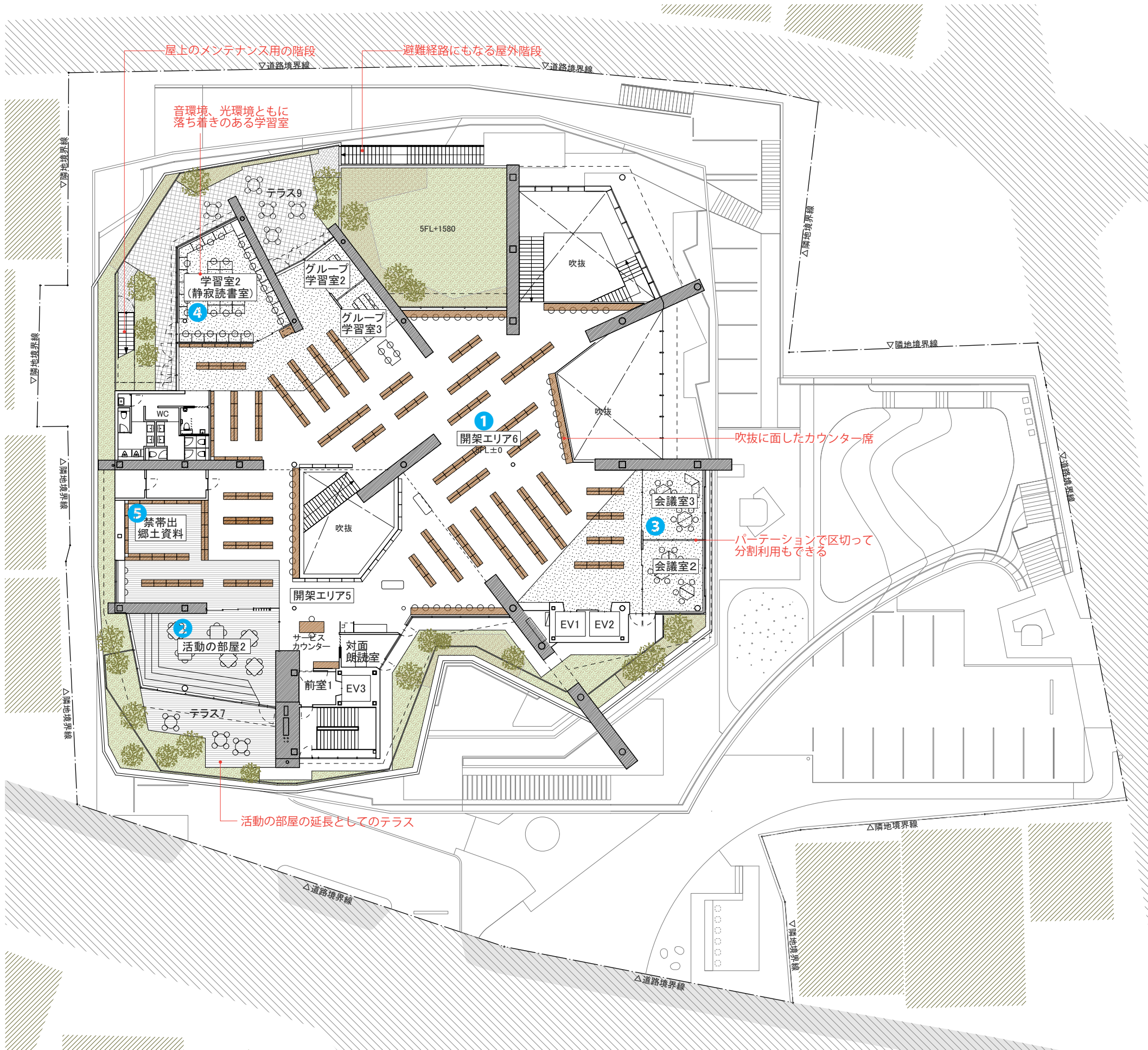
- 可動間仕切りによって2室一体でも利用可能なコンパクトで落ち着いた空間とします。
- 開架エリアから会議室での活動が感じられる設えとします。

4 学習室 (静寂読書室)

- 庭に面した落ち着いた空間とします。

5 禁帯出郷土資料

- 貴重な郷土資料や展示を閲覧できるスペースです。
- 活動の部屋と近接することで、資料の積極的な活用がしやすい計画とします。



豊富な資料に囲まれ、風景に開かれた落ち着きのある5階

① 伊東の環境とつながる「活動の丘」

火山活動や地殻変動により隆起してできた伊豆半島の大地と連続する力強い緑の丘をつくり、伊東ならではの活動の場を生み出します。まちを歩いていると丘に出会い、丘をのぼっていくうちに自然と施設内を巡っていくような、まちと連続した体験の場をつくります。都市公園のような緑豊かな居場所をまちに面して計画することで、まちに賑わいを創出します。

② 伊東の環境を受けとめる「ヒダ壁」

伊東の温暖で穏やかな風や光、風景などの周辺環境に応答しながら放射状に配置する「ヒダ壁」により、内外が連続し、内部の活動が外観に現れます。また、大きな建築の立面を分節することで、周辺環境とも調和した建ち方となります。伊東の豊かな環境を積極的に受け止めることで、多様な居場所をつくり、施設内においても伊東の自然が感じられます。

③ 図書館内の活動が現れる「多様な庭」

各フロアには、それぞれ特徴を持った屋外テラスを設けます。気候の穏やかな伊東ならではの気持ちの良い屋外空間となります。植栽計画は伊東ならではの植生を取り入れた計画とし、また、メンテナンスに配慮した計画とします。地面とつながる丘には、傾斜を活かした子どものあそび場をつくり、都市公園の少ない伊東のまちなかに居場所をつくります。

